

聖書とコロナウイルス流行 ～キリスト者には今、どんな使命があるのか～

吉田 隆

はじめに ～「逆境の日にはよく考えよ。これもあれも、神のなさること」(伝道 7:14)

I. コロナ禍によるチャレンジとは何かを考える

1. 外的側面

- (1) 集まる場としての「教会」の見直し (集まれない人への配慮)
 - ・礼拝・祈祷会などのネット配信、説教原稿の配布
- (2) インターネットによる新しい可能性と限界
 - ・新たな伝道や牧会の可能性／ヴァーチャル (ほぼ現実) とリアル (現実) の違い

2. 内的側面

- (1) 不安と恐れの原因は何か? ～不安と恐れが多層性
 - ⇒ マスコミ報道! ウイルス? ワクチン・治療薬の効果? 世間の目?
- (2) “命”の何を守るのか? ～人間の命の多面性
 - ⇒ 外出自粛による肉体的衰えや持病の悪化、精神疾患や認知症の進行

II. 聖書から考える

1. 聖書における“疫病”と神

- (1) 神からの懲らしめとしての災禍
 - ・戦争と飢饉と疫病 (エレ 14:12、21:7、27:8 等)
 - ・神への恐れと悔い改めの機会 (出エジ 9:15、詩編 89:33 他多数)
- (2) 癒し主としての神 (サム下 24:25、歴代下 20:9)
 - ・罹患者の隔離は旧約時代でも常識 (レビ 13-14 章)
- (3) 主は御民を守り愛される (詩編 91 章)
 - ・病の如何にかかわらず (マルコ 1:41)

2. 聖書における“距離 (ディスタンス)”の問題

- (1) 距離がない幸福
 - ・神と人 (創 2:7 「鼻に命の息を…」)
 - ・人と人 (創 2:18 「独りでいるのは良くない」、2:24 「二人は一体」)
- (2) 罪の結果としての距離
 - ・神から (創 3:8)、互いに (創 3:12)
 - ・神と共に生きる楽園からの追放 (創 3:24)
- (3) 罪の悲惨としての距離
 - ・神が離れている「なぜ遠く離れて立ち」(詩 10:1 Cf. 22:2 他)
 - ・自分から離れる「わたしから離れてください。わたしは罪深い者」(ルカ 5:8、18:13)
 - ・差別と孤独「疫病にかかったわたしを…避けて立ち」(詩編 38:12) 感染予防ではない!

(4) 距離を超える神

- ・語りかける神 (アダム、アブラハム、ハガル、モーセ、イスラエル、ヨブ)
- ・“共にいる”神 (キリストの受肉の意味～会食、触れるため)
- ・神と人の霊的距離の解消 ～十字架の死 (遺棄) と人間の赦し (神殿の幕が裂けた)
- ・人間間の精神的距離の解消 ～敵意を減ぼす (エフェ2:13、16)
- ・聖霊は、すべての (物理的・時間的) 距離を超える ～どこでも、いつでも、いつまでも!

Ⅲ 信仰と生活を考え直す ～“距離”を超える福音に生きる者として

- (1) 自分の信仰と価値観を見直す (ロマ12:2)
⇒ 信仰者にとっての究極的な真理とは何か (ロマ8:38-39)
- (2) “身体性”の意味を見直す (ロマ12:1)
⇒ キリスト者にとってのリアルな交わりの意味 (ヘブ10:24)
- (3) キリスト者の使命を見直す (ルカ10:36-37)
⇒ 隣人愛は距離を超える (例: 医療者・福祉関係者)
- (4) 物理的・精神的な距離を超える方法を見直す (コロ2:5)
⇒ 霊的交わりを豊かにするための多様な方法の模索

おわりに ～「逆境の日にはよく考えよ」

- ・苦難や試練は、神から与えられた機会 (Iコリ10:13)。悔い改めと新たな献身のために。